

# スポーツ・文化振興調査特別委員会中間報告書

平成28年5月27日

宇都宮市議会議長 渡辺道仁様

スポーツ・文化振興調査特別委員会  
委員長 塚原毅繁

本委員会は、平成27年7月1日の本会議において設置され、「文化振興について」の調査研究を行ってまいりましたが、このたび中間報告として、文化振興の推進と教育委員会の枠を超えた文化施策の展開について、提言をとりまとめましたので、その経過と結果について次のとおり報告いたします。



委 員 名 簿

(平成28年5月27日現在)

委 員 長	塚 原 毅 繁
副 委 員 長	駒 場 昭 夫
委 員	佐々木 均
同	黒 子 英 明
同	郷 間 康 久
同	工 藤 稔 行
同	増 渕 一 基
同	舟 本 肇
同	櫻 井 啓 一
同	真 壁 英 敏
同	綱 河 秀 二
同	南 木 清 一
同	細 谷 美 夫
同	熊 本 和 夫
同	中 山 勝 二

# 目 次

## I 調査の経過 ----- 1

### 1 委員会の開会

(1) 第1回委員会から第7回委員会まで

### 2 先進都市の視察調査

(1) 小田原市，津市

## II 提 言 ----- 4

付託調査事項：文化振興について

(文化振興の推進と教育委員会の枠を超えた文化施策の展開  
について)

### 1 文化振興の推進に向けて ----- 4

(1) 本市の文化振興における現状と課題

(2) 文化意識の醸成について

(3) 積極的な情報発信について

### 2 教育委員会の枠を超えた文化施策の展開について ----- 7

(1) 多様な分野の施策との連携について

(2) 組織横断的な文化行政の推進について

## III む す び ----- 9

# I 調査の経過

## 1 委員会の開会

### (1) 第1回委員会（平成27年7月1日）

ア 議長の招集により開会され，委員会条例第6条の規定に基づいて正副委員長の互選を行い，委員長に塚原毅繁議員，副委員長に駒場昭夫議員を選任した。

イ 今後の会議の進め方や調査内容について確認した。

### (2) 第2回委員会（平成27年8月19日）

ア 市内の文化資源について把握するため，現地調査を行った。

### (3) 第3回委員会（平成27年11月17日）

ア （仮称）第2次宇都宮市文化振興基本計画の策定に向けた取り組み状況について執行部から説明を受け，質疑等を行った。

イ （仮称）第2次宇都宮市文化振興基本計画について意見交換を行った。

### (4) 第4回委員会（平成28年2月12日）

ア 第2次宇都宮市文化振興基本計画素案について執行部から説明を受け，質疑等を行った。

イ 小田原市及び津市の行政視察に係る視察報告書の作成について協議を行った。

ウ 第2次宇都宮市文化振興基本計画素案について意見交換を行った。

### (5) 第5回委員会（平成28年4月27日）

ア 第2次宇都宮市文化振興基本計画の推進に向けた取り組み等について意見交換を行った。

イ これまでの委員からの意見等を踏まえ、教育委員会の枠を超えた文化施策の展開について、委員会の中間報告を提出することに決定した。

(6) 第6回委員会（平成28年5月9日）

ア 文化振興の推進に向けた取り組み等について意見交換を行った。

イ 教育委員会の枠を超えた文化施策の展開について意見交換を行った。

(7) 第7回委員会（平成28年5月20日）

ア 中間報告書（案）について、取りまとめを行った。

## 2 先進都市の視察調査

(1) 小田原市と津市の視察調査

小田原市の「小田原市文化振興ビジョン」についてと、津市の「津市文化振興計画」について調査をするため、平成28年1月13日から14日までの2日間にわたり視察を行った。

ア 小田原市文化振興ビジョンについて（小田原市）

小田原市は、市民の文化力の向上を目指し、「希望と活力あふれる小田原」を実現するため、平成24年3月に、市が取り組むべき文化振興の指針として「小田原市文化振興ビジョン」を策定した。

同市においては、音楽や演劇、美術などで表現される芸術文化だけではなく、衣食住をはじめとした生活文化など、人間が作りだした営みや暮らしそのものを文化として捉え、幅広い観点から、まちづくりや文化振興の課題・事業例について検討しており、大変参考になる計画であった。

また、同市は、文化担当部署をスポーツ担当部署などとあわせて、市長部局に設置しているが、これは教育の枠にとらわれず、市の他の

施策との横断的な連携を図りやすいという面で、大きなメリットがあるように感じた。

その一方で、文化行政等は、学校教育や社会教育と密接な関わりがあることから、市長部局に移管後も教育委員会事務局と定期的に連携会議を実施するなど、関係の維持・強化に努めているとのことであり、本事例は大変参考になるものであった。

#### イ 津市文化振興計画について（津市）

津市は、まちづくりの目標である「豊かな文化と心を育むまちづくり」を実現するため、安心、交流、元気を基本理念として、平成21年3月に津市文化振興計画を策定（平成25年4月改訂）した。

同市においても、小田原市同様、文化を人間の生活全般に関わるものと定義づけているが、同計画では、総合計画基本計画の基本施策である「文化芸術活動の充実」「歴史的資源の保存と活用」を基本目標に設定し、芸術、歴史分野に重点を置き、観光、環境、食などの他分野に関する文化については、各部局においてそれぞれ計画を策定しており、参考になる手法であった。

また、同市では、芸術や文化の事業推進や文化施設の管理等を担当する部署を市長部局に、文化財の保護等に関する事業を担当する部署を教育委員会事務局に設置しており、これらの両組織が相互に連携し、歴史的資源等も活用しながら、総合的に文化振興を進めており、本事例は大変参考になるものであった。

## II 提 言

本委員会においては、文化施策の着実かつ効果的な推進に寄与すべく提言を行うため、本市の文化振興における現状と課題を整理し、先進都市の視察調査も行いながら意見交換を重ね、調査研究を進めてきたところである。

このような中、これまでの調査研究を踏まえ、文化振興の推進と教育委員会の枠を超えた文化施策の展開について、他に先行して提言すべきとの意見でまとまったことから、以下のとおり提言するものである。

### 1 文化振興の推進に向けて

本市では、文化課を初め市内各部署で実施している文化に関する事業を総合的に捉え、効果的に施策を推進していくための方向性を示した、第2次宇都宮市文化振興基本計画（以下「文化振興基本計画」という。）を平成28年3月に策定したところである。

この計画を着実に推進するためには、文化振興における現状と課題を踏まえ、しっかりとした目的意識を持ちながら、それぞれの施策に取り組む必要がある。

#### (1) 本市の文化振興における現状と課題

##### ア 歴史文化について

本市には、宇都宮城址公園、飛山城史跡公園、多気城跡地など全国的にも価値の高い中世の史跡が残されており、各種イベント等を通して一定のにぎわいを見せているが、これらの歴史的文化的資源の保存・活用が課題となっている。

近年、市民が主体となり、国の補助金の活用を図りながら、かつて二荒山神社の菊水祭で活躍していた「火焰太鼓山車」や「桃太郎山車」を復元し、地域の歴史文化意識の醸成やまちの活性化につなげようという取り組みがなされていることから、このような取り組みを積極的に支援することで、地域の貴重な歴史的文化的資源を継続的に活用し、保存していくことが求められている。

## イ 生活文化について

各地域には特色ある伝統的な祭りや独特な食文化が存在するが、それらを継承する機会が少なく、子ども世代のみならず、親の世代でもあまり知られていないといった状況が生まれている。

また、本市には、黄鮒やふくべ細工、宮染めなど、長い歴史と伝統に育まれた伝統工芸品が数多くあるが、伝統工芸産業を取り巻く環境は、需要の減退や後継者不足の問題などにより、厳しい状況が続いており、文化振興基本計画の中で明確に位置づけた永続的な取り組みが求められている。

## ウ 芸術文化について

本市は県内最多の座席数を誇る大ホールを備えた文化会館や全国の公立美術館に先駆け、デザイン作品収集に力を入れ全国的にも高い評価を得ている宇都宮美術館など、数多くの文化施設を有し、市民が芸術文化に触れることのできる環境が充実している。

中でも、宇都宮美術館においては、地域内の多くの団体や学校からの協力を得て「子どもフェスタ in 文化の森」が開催され、地域に根差した美術館として親しまれているほか、館外プロジェクトとして実施した「おじさんの顔が空に浮かぶ日」では、市内外から大きな反響を呼ぶなど、今後の展開が大いに期待される場所である。

今後は、市民が買い物のついでや、通勤途中などに気軽に芸術文化に触れることのできる場所として、JR宇都宮駅周辺や中心市街地に拠点施設を整備したり、まちの中を歩いて回遊しながら芸術文化を楽しめるようなまちづくりを進めるなど、さらなる環境整備が求められている。

## エ 宇都宮ならではの文化について

本市の有する個性ある文化の一つである百人一首は、宇都宮氏第5代当主宇都宮頼綱（蓮生）が藤原定家に和歌の選定を依頼したことが契機となっており、本市とのかかわりが深い。

これまで、市民大会や全国大会等を開催するなどの普及啓発に向けた

取り組みを進めており、大いに評価するものである。百人一首は老若男女が楽しめる遊びでもあり、家族間のコミュニケーション手段として、一層の普及啓発が求められている。

現在、本市では、餃子、ジャズ、カクテル、妖精といった宇都宮ならではの文化資源に着目し、都市の魅力づくりに取り組んでいるが、これらを文化によるまちづくりの核として、どのように活用していくかが課題となっている。

## (2) 文化意識の醸成について

文化振興基本計画の基本理念である「くらしの中に文化が息づくまち」を実現するためには、文化を精神的にも身近に感じてもらうことが肝要である。

難しいものが難しいまま展示されていても、青少年や子どもには身近なものとは感じてもらえない。宇都宮だからこそという独自性やアイデア、身近に感じるためのツールが必要である。

本市においては、マンガ専攻を擁する文星芸術大学と連携し、さまざまな事業をマンガで紹介する取り組みを行っているほか、地元テレビ局主催のアニメフェスティバルがオリオンスクエアで開催され、多くの参加者でにぎわうなど、盛り上がりを見せていることから、たとえば、漫画やアニメとのコラボレーションなどを通して、文化を身近に感じてもらうといった取り組みが有効であると考えられる。

また、小中学校等において文化に親しむ機会を充実させ、理解促進を図ることで、将来の担い手育成につなげるような取り組みが求められる。

## (3) 積極的な情報発信について

本市が有する有形・無形さまざまな文化資源を、市内外へ積極的に情報発信し、観光振興に結び付けていくような施策が期待される場所である。

近年、大谷地区の採石場跡地の幻想的な地下空間や大谷石の織りなす景観、本市が育んできた食文化である宇都宮餃子などを求めて本市を訪

れる国内外の観光客が増えており、現地の様子はフェイスブックやツイッターなどのSNSを通じて、リアルタイムで世界に向けて発信されている。

このような中、市内に点在する文化施設や文化資源に関する情報を集約し、本市の魅力を発信することができる拠点施設をJR宇都宮駅周辺や中心市街地に整備し、来訪者が公共交通機関を利用して、それぞれの文化施設に立ち寄り、本市の文化資源に触れることのできるような仕組みづくりが必要である。

## 2 教育委員会の枠を超えた文化施策の展開

文化振興を推進するに当たっては、「市民が身近な文化に触れることで地元愛を育む」「宇都宮の文化を紹介することで観光客を誘致する」といった目標が必要である。

また、単に文化振興を図るだけではなく、「宇都宮の魅力を向上させる」「集客する」「経済効果を上げる」といった本市のまちづくりに波及させていくことが肝要であり、文化をできるだけ広い間口で捉えた取り組みが求められる。

### (1) 多様な分野の施策との連携について

文化芸術活動へ参加できる機会の充実など児童生徒の豊かな感性や多様な個性を育むための学校教育や本市の歴史を語る上で欠かすことのできない文化財の保護等については、引き続き教育委員会による積極的な施策展開が期待されるところである。

その一方で、さまざまな文化施策を着実かつ効果的に推進するためには、教育分野だけではなく、経済分野、まちづくり分野、都市整備分野との連携が必要不可欠であり、それぞれの目的に応じた組織横断的な対応が求められている。

たとえば、各地域で行われている文化祭においては地域の歴史的要素が不足しているとの指摘があるが、地区市民センターを所管する市民まちづくり部との連携により、地域への支援が強化され、歴史文化意識の

向上や地域文化の継承，さらには後継者の育成につながるものと考えられる。

また，道路や橋，公園などの施設整備においては，建設部や都市整備部との連携により，文化的な付加価値を考慮した整備が期待できるほか，餃子，ジャズ，カクテル，妖精といった本市ならではの文化を活用したまちづくりにおいては，経済部との連携により，民間活力を活用した施策を展開することで，宇都宮の魅力向上や経済波及効果などが期待できる。

## (2) 組織横断的な文化行政の推進について

文化振興に係る多様な施策を効果的に展開する上では，さまざまな場面で，組織横断的な対応が求められる。

本委員会において行政視察を行った小田原市及び津市では，いずれも文化行政に係る部署を市長部局に設置しており，教育委員会と市長部局それぞれが相互に連携しながら，総合的な文化振興の推進を図っている。

本市においても，文化行政に係る事務のうち，経済分野，まちづくり分野，都市整備分野と関連が深い事務を市長部局が担うことなどによって，多様な施策領域との連携が促進されるとともに，文化を意識した施策の展開が期待できるなど，文化振興の効果的な推進につながるものと考えられる。

それぞれの施策目的に応じた効果的な行政運営がなされるよう，組織の見直しも含めて，検討を行うべきである。

### Ⅲ む す び

本委員会の提言に基づき、文化振興計画の着実な推進が図られるとともに、教育委員会と市長部局の連携が強化され、より効果的に文化施策が推進されることを期待する。

なお、本委員会においては、文化振興について引き続き調査を重ねていくものである。